

2019年7月30日（火）～8月3日（土） 北アルプス 表銀座を歩く

穂高駅辺りの夜は多少暑くはありました、関東地方住宅地の熱帯夜のような寝苦しさは無く良く眠れました。少なくとも、堀さんと吉松は、まずまず睡眠が取れたと思います。ただ一人、池戸さんにとってはそれでも暑すぎたようでした。「寝汗がダラダラと吹き出して、まともに寝られなかった」と、なにやら寝起きからブツブツとつぶやいていました。

穂高駅前から出る中房温泉行のバスが、計画より90分早い5時10分に出ることが分かり、朝食は4時過ぎに摑りました。昨晚スーパーで買い求めた出来合いの朝食のため、なんとも食事内容は味気ないものでしたが、「腹が減っては戦が出来ぬ」訳で、無理矢理腹に押し込みました。

今日から4日間は北アルプスの山中を歩き通さなければなりません。
泣いても、笑っても、汗をかいでも、風呂に入れなくとも、その結果、汗と汚れで体中が臭くなってきてても、兎に角歩き通して無事に下山しなければなりません。

3人はそれなりの覚悟を持って、今朝を迎えました。

2日目（7月31日 水曜日 晴）



誰もいないゲストハウスの食堂で、勝手にお茶を沸かし、適当に茶碗や箸を使って、朝食を摑った。

使った茶碗類はきちんと洗い、ゴミは分別してゴミ箱に入れ、クマさん会の名を辱めることが無かつたことは勿論である。



4時45分
ゲストハウスを後にした。



中房線乗り合いバスは、タイミングによっては登山客で長蛇の列になることもあるようだったが、今朝はそこまで混んではいなかった。

それでも1台では間に合わず、臨時バスが出て2台繋がって中房温泉へ向かうことになった。

約60分の乗車、@1700円也。



予定通り、中房温泉 燕岳登山口(1462m)に6時頃到着した。

早速、登山計画書を提出。

靴紐を締め直し、身体をほぐして登山準備を整えた。

3人揃って集合写真を撮り、6時30分に登山を開始した。





燕岳は登山口からすぐに急登が始まり、結構大変である。



約30分で第一ベンチに到着（小休止）

池戸さんは早くも汗が噴き出してきた。
秘密兵器の麦わら帽子は役立っているのやら、いないものやら？



急登は続く。



登山道には、岩もゴロゴロしてきた。



一寸、池戸さんのペースが落ちてきた。
樹木が覆っているので、比較的涼しいはず
なのだが・・・。



第二ベンチでの小休止



第三ベンチに向けて出発

平坦道は良いのだが・・・。



坂道になると、池戸さんの足の運びがかなりきつそうであった。



8時30分

第三ベンチで少し長めの休憩を取った。



富士見ベンチに向けて、頑張る池戸さん



富士見ベンチでは、いよいよ得意の「蛙の
でんぐり返し」休憩状態になった。



富士見ベンチを取り敢えず出発したのだが・・・。

池戸さんは、7月上旬に登った巻機山でも前夜の深酒が影響して登り当初はつらそうであった。登山道を踏みしめる足に力が無かった。しかし、汗とともにお酒が抜け、8時間近くの登山を完歩する実績がある。

しかし、今回のスタミナ消耗の早さは先回とは違うようだ。昨夜、暑さで充分睡眠が取れなかつたことが災いしたのかも知れない。3時間登っただけではあったが、後ろから見ていて、足の運びがあまりにも弱々しい。このまま登っては、一人で下山することもままならなくなりそうであった。

富士見ベンチを出て間もなく、池戸さんに止ってもらい、堀さんにも声をかけて、池戸さんご自身の判断を聞くことにした。

即座に、「ここから下山する」との決断が下った。間違いなく、正しい判断だと思った。



池戸さんは、左の写真をスマホで撮って、振り向くことも無く、未練も無く、下山していった。

*もとい、一つだけ未練が・・・。

合戦小屋でスイカを食べたかった！本当は、あの名物スイカを食べてから下山したかったのです。

でも、合戦小屋まで行っていたら、一人で下山するスタミナが残されていたかどうか？やはりスイカを食べなくて良かったのだと思います。



堀さん、吉松の2人は池戸さんを見送った。残された2人で、これから4日間の行程をこなすことになった。

我々は、合戦小屋を目指して登り始めた。



合戦小屋まであと5分のところまで来た。早くもスイカのイラストが描いてあった。



合戦小屋が見えてきた。



池戸さんと別れて 20 分ほどで合戦小屋に着いた。

有りました、スイカの看板が！@ 500 円



やっぱりスイカは美味かった。

ガブリと食いつき、意地汚くほとんど皮の近くまで食べ尽くした。



合戦小屋までの間に咲いていた花々





10時50分
燕山荘を目指して行動開始



合戦小屋から少し行くと、そこからは樹林帯から抜けてなだらかな合戦尾根を歩くことになる。
赤とんぼが盛んに飛んでいた。指の先にも平気で止る。



合戦尾根は花の宝庫である。





12時30分、燕山荘（2704m）に到着。

穂高駅からのバス出発が早かったお陰で、計画よりも1時間ほど早く着くことが出来た。



3人分の予約をしてあったが、体調不良で合戦小屋を前にして下山したことを説明し、2人の宿泊手続を行った。平日であったことが幸いして、登山客は左程多くは無い。（一泊10300円也）



山小屋にしては、十分な寝るスペースを確保することが出来た。

宿泊手続を済ませて、まずは腹ごしらえ。堀さんは、かき揚げうどん、ケーキにコーヒー
吉松は持参のパンとコーヒー



昼食後、足のクールダウンを兼ねて、花を愛でながらゆっくりと燕岳に向かった。





振り返って山荘方面に目をやると、明日向かう大天井岳への稜線がよく見えた。

生憎その先の槍ヶ岳までは、雲に覆われていて遠望することは出来なかった。

15時、燕岳山頂（2763m）到着、今回の表銀座コース縦走の最初のピークだ。

（クマさん旗を忘れたのが残念無念）



山荘から燕岳への登山道にはコマクサが咲き誇っていた。

堀さんによると、以前はここまで咲いていなかつたとのこと。登山者や山の管理人による植生保護の賜か？





コマクサ以外にも様々な高山植物を楽しむことが出来た。



16時に山荘に戻って、生ビールで乾杯
(因みに生ビール中800円、大は1000円也)





夕食は17時から。

おかげはハンバーグ料理で、大いに食が進みました。

*単独下山の池戸さんのことについておきたいと思います。

富士見ベンチで別れた池戸さんは、第三ベンチ、第一ベンチで横になってしっかり休んだとのこと。合計で2時間近くは寝たとのことでした。

ドコモ携帯の電波状態が良くなった燕山荘から、堀さんが電話連絡をしました。池戸さんは丁度第一ベンチで寝ている時だったようです。第一ベンチまで降りていれば一安心と、堀さん、吉松2人でホッとしました。

第一ベンチには池戸さんと同様にバテてしまった登山者がいて、どうやらその方の好意で車に便乗させてもらい、穂高駅まで戻ることが出来たそうです。

【以下は、池戸さんの弁】

足がだるく、力が入らない、行動食を食べてない、シャリバテ気味、高山病の症状で食べられない、登り3時間であそこまで体調崩すとは予想外。

くだりでは少しずつ食べていたが、登山口まで降りてやっと力が出てきた。途中胃もおかしくなり、食べ物を受け付けなかった。

【以下は、後日譚】

ストックは、車に同乗するときに車内に持ち込み忘れて紛失したそうです。

あの秘密兵器「麦わら帽子」は、八王子駅乗り換え後の電車の中で手元から去って行ったそうです。今や、行方知れずです。

帰りの列車は「あずさ30号」に乗り込んだそうです。ずっと寝ていて酒を飲む氣にもなれなかつたとのことでした。自宅に着き、水風呂に入ってやっと酒を飲む气になったとのことです。

【振り返って、ご本人が悔やむこと】

やはりスイカを食べなかつたこと。

更に付け加えるならば、風呂に入ってから帰宅の途につけなかつたこと。

下山後の池戸さんのそんな難行苦行もつゆ知らず、堀さんと吉松は山荘のシュラフの中に潜り込み、ぐっすりと寝ていたわけがありました。